

8月16日（金）に行った、職員と市長の懇談の場で、市長が、市民の皆さんに、これからも健康で元気に暮らしていただくために進めていること、進めていきたいことについて、次のように話されましたので、紹介します。

**市民一人ひとりが、いつまでも、元気で、ハツラツとした人生を過ごして欲しい。**

現在、長久手市では若い方たちが増えていますが、今後は人口が減少し、高齢者の方々が増えていく時代になることは、私が以前からよく述べていることです。

定年後、家にいるだけではなくて、地域に出て何かやってみたいと考えている方もいらっしゃることもお話してきました。私は、ぜひ、そういう方たちに、気負わずにどんどんまちに出てきて欲しいと思っています。

以前、広報「ながくて」の「(仮) いっぺい日記」でも、どうしたら地域の方たちが集まって、まちづくりに参加してくれるのか、ご提案を募集したところ、市民のみなさんから少しずつご提案をいただいています。ぜひ、もっとアイデアを出しあって、実際に活動して欲しいと思います。

私は職員に市民の方たちに、仕事を少しずつお渡しし、生きがいを推奨しなさいと話をしています。

私事ですが、毎朝、市内のあちこちを歩いてから役所に来ています。市内を自分の目で見てみて、歩道に雑草が無機質に生えていたり、木が整備されていない様子を見ると、居た堪れない気持ちになります。ですから、現在、県に申

請して、役所前の県道の街路樹を大きな木に植え替えて、地域の手で管理できるように検討しています。

市の主要な県道にも、市道にも、同じように大きな木を植えて、道に木陰をつくり、ベンチをおいて、家族や友人同士、恋人同士が憩いの場として集えるような道を作り、まち全体を憩いの場にしたいと考えています。また、街路樹の落ち葉を集める等を地域の方々にお任せし、自分たちで住みたいと思うまちづくり、仕事がある、生きがいがある「“今日用がある”、“今日行くところがある”」仕組みを作りたいと思っています。

平成27年には愛・地球博記念公園（通称：モリコロパーク）で県が主催する「全国都市緑化あいちフェア」が開催されます。いいきっかけであると思いますので、緑化の取り組みをみなさんの生きがいづくりに生かして元気になってもらいたいと考えています。

また、長久手市は、今後、加速していく高齢化社会に備え、みなさんの健康づくりに力を入れるべく、本年5月に愛知医科大学及び（株）長久手温泉と覚書を交わし、3者が連携してさまざまな行事や講演会などを実践的に進めています。7月には健康都市連合・健康都市連合日本支部に加盟し、全国の健康づくり先進自治体のアイデアを学習していきます。

先に述べた街路樹の例も、生きがいを作ることが、みなさんの健康に一役買うことだと考えています。現在、長久手市でも前期高齢者（注1）が年々増加しており、国民健康保険税（注2）を値上げしなければならなくなる時代がくるかもしれません。そんなことが起こらないように、みなさんが、健康で、ハツラツとした人生を過ごせるように、一人ひとりに「役割」と「たつせがある」、「生きがい」に満ちて「健康」に暮らせる長久手市を作っていくために、市民

と職員のみなさんでアイデアを出し合って、市民全員がハツラツとしたまちづくりを進めていきたいと考えています。

### ～市長のお話を伺って～

一緒にまちづくりをしましょうと言われると、なんだか大きなことをしなければならぬとか、責任があるから嫌だなと敬遠されがちですが、自分の生きがいづくりの一環として、些細なことから始めてみて、楽しく健康に暮らしていたら、「気が付いたらまちが住みやすくなっていたね。」くらいの軽い気持ちで、どんどん多くの方にまちづくりに参加していただきたい、また、自分も、そのお手伝いをしたいと思いました。

#### （注1）前期高齢者とは

出典：『kotobank』

高齢者のうち、65歳以上、75歳未満の人のこと。

#### （注2）国民健康保険税とは

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

（こくみんけんこうほけんぜい）とは、国民健康保険を行う市町村が、国民健康保険に要する費用に充てることを目的として、被保険者の属する世帯の世帯主に対し課する税金であり（地方税法 703 条の 4）、分類上は地方税、直接税、目的税に該当する。一方、市町村が地方税法の規定によらず保険料を徴収する場合や、国民健康保険組合が保険料を徴収する場合は、国民健康保険料と呼ぶ。